

ISO 39001取得企業様アンケート調査  
追加集計・分析レポート

平成 29 年 3 月

独立行政法人 自動車事故対策機構



## 目 次

1. 実施内容 .....	1
2. 分析結果 .....	3
(1) 「期待」と「効果」の関係 .....	3
(2) 「効果あり」回答企業様の傾向の分析 .....	5
① 効果間の相関関係 .....	5
② 「効果あり」回答企業様の属性 .....	5
③ 「効果あり」回答企業様における実施内容 .....	9
3. 考察 .....	13
(1) 「期待」と「効果」の関係について .....	13
(2) 「効果あり」回答企業様の傾向の分析について .....	13
4. 資料編（平成27年度調査票） .....	16



# 1. 実施内容

## 【目的】

- ・平成 27 年度に独立行政法人自動車事故対策機構（NASVA）が実施した「ISO 39001 取得企業様アンケート調査報告書」（以下「平成 27 年度調査」という。）で得た ISO 39001 認証取得企業様における認証取得の効果、認証取得の効果ありとしている企業様の属性や取組内容を整理し、今後の普及啓発活動における基礎資料とする。

## 【利用データ】

- ・利用データは、「平成 27 年度調査」で得た調査結果を用いる。

＜参考：平成 27 年度調査実施概要＞

調査対象	平成24年10月から平成27年10月までの間にISO 39001の認証を取得された企業様121社
調査方法	郵送によるアンケート調査
調査期間	平成 27 年 11 月 24 日(火)～平成 28 年 1 月 8 日(金)
回収状況	77 件／121 件(回収率 63.6%)
調査項目	・組織の概要 ・組織の業種 ・組織の規模、適用範囲の規模 ・構築期間、コンサルタントの支援の有無 ・ISO 39001の認証取得の目的 ・ISO 39001の運用状況 ・ISO 39001の認証取得の効果 ・RTS目標及びRTS詳細目標

## 【分析内容】

- ・平成 27 年度調査結果から、問 7 「認証取得への期待」と問 10 「認証取得後の効果」の関係を把握する。
- ・平成 27 年度調査結果から、問 10 における「効果あり」回答企業様の属性別の状況の違いを把握する。
- ・平成 27 年度調査結果から、より多くの「効果あり」としている企業様に着目し、問 9-1、9-2、問 11 等における具体的な目標設定・取組内容・意見を整理する。

(注) 図表、コメントにおいては、選択肢の表記を省略している。

<参考：問7「期待」と問10「効果」の回答結果>

問7 ISO 39001を取得するメリットの期待度	調査数	期待していた	何となく期待していた	期待していなかった	無回答
交通事故による死傷者を減少させる	77	77.9	18.2	1.3	2.6
損害保険料を削減させる	77	48.1	33.8	14.3	3.9
交通事故に伴う費用(裁判費用、修繕費など)を削減させる	77	53.2	32.5	10.4	3.9
交通事故に伴う、人的・時間的コストを削減させる	77	62.3	28.6	5.2	3.9
社会から信頼が得られる	77	66.2	31.2	-	2.6
取引先の信頼が得られる	77	64.9	27.3	3.9	3.9
第三者認証がアピールとなる	77	54.5	35.1	7.8	2.6
既存取引先とのビジネスを拡大させる	77	37.7	36.4	22.1	3.9
取引先からのクレームを減少させる	77	19.5	46.8	29.9	3.9
新規取引先が得られる	77	18.2	48.1	29.9	3.9
競合他社との差別化につながる	77	58.4	28.6	9.1	3.9
将来的に(認証取得が)取引の前提となる	77	13.0	50.6	32.5	3.9
企業イメージ、ブランドイメージを向上させる	77	68.8	26.0	-	5.2
社内の組織体制が整備される	77	46.8	39.0	11.7	2.6
交通安全への取組の見える化が図られる	77	74.0	20.8	2.6	2.6
組織内や他組織とのコミュニケーションが促進される	77	35.1	49.4	13.0	2.6
社内情報が文書化されることにより、作業が標準化され記録が整備される	77	36.4	51.9	9.1	2.6
従業員の満足度やモチベーションをアップさせる	77	28.6	54.5	13.0	3.9
従業員のマナーを向上させる	77	40.3	45.5	11.7	2.6
優れた人材が確保できる	77	13.0	46.8	36.4	3.9
業界内の動向にあわせる	77	13.0	48.1	35.1	3.9
企業の社会的責任が果たせる(CSR)	77	59.7	33.8	2.6	3.9
緊急事態への対応力が向上する(BCP)	77	44.2	41.6	10.4	3.9

問10 ISO 39001認証取得後の効果	調査数	期待以上の効果があった	だいたい期待通りの効果があった	期待した効果がない/まだわからない	無回答
交通事故による死傷者を減少させる	77	10.4	62.3	26.0	1.3
損害保険料を削減させる	77	5.2	42.9	49.4	2.6
交通事故に伴う費用(裁判費用、修繕費など)を削減させる	77	6.5	45.5	45.5	2.6
交通事故に伴う、人的・時間的コストを削減させる	77	7.8	46.8	42.9	2.6
社会から信頼が得られる	77	13.0	59.7	24.7	2.6
取引先の信頼が得られる	77	13.0	57.1	28.6	1.3
第三者認証がアピールとなる	77	19.5	50.6	27.3	2.6
既存取引先とのビジネスを拡大させる	77	3.9	31.2	63.6	1.3
取引先からのクレームを減少させる	77	3.9	35.1	58.4	2.6
新規取引先が得られる	77	1.3	22.1	74.0	2.6
競合他社との差別化につながる	77	14.3	46.8	36.4	2.6
将来的に(認証取得が)取引の前提となる	77	6.5	20.8	70.1	2.6
企業イメージ、ブランドイメージを向上させる	77	28.6	54.5	14.3	2.6
社内の組織体制が整備される	77	18.2	67.5	11.7	2.6
交通安全への取組の見える化が図られる	77	31.2	57.1	9.1	2.6
組織内や他組織とのコミュニケーションが促進される	77	11.7	61.0	24.7	2.6
社内情報が文書化されることにより、作業が標準化され記録が整備される	77	16.9	68.8	11.7	2.6
従業員の満足度やモチベーションをアップさせる	77	10.4	62.3	24.7	2.6
従業員のマナーを向上させる	77	13.0	59.7	24.7	2.6
優れた人材が確保できる	77	3.9	22.1	71.4	2.6
業界内の動向にあわせる	77	5.2	35.1	57.1	2.6
企業の社会的責任が果たせる(CSR)	77	18.2	64.9	14.3	2.6
緊急事態への対応力が向上する(BCP)	77	10.4	67.5	19.5	2.6

## 2. 分析結果

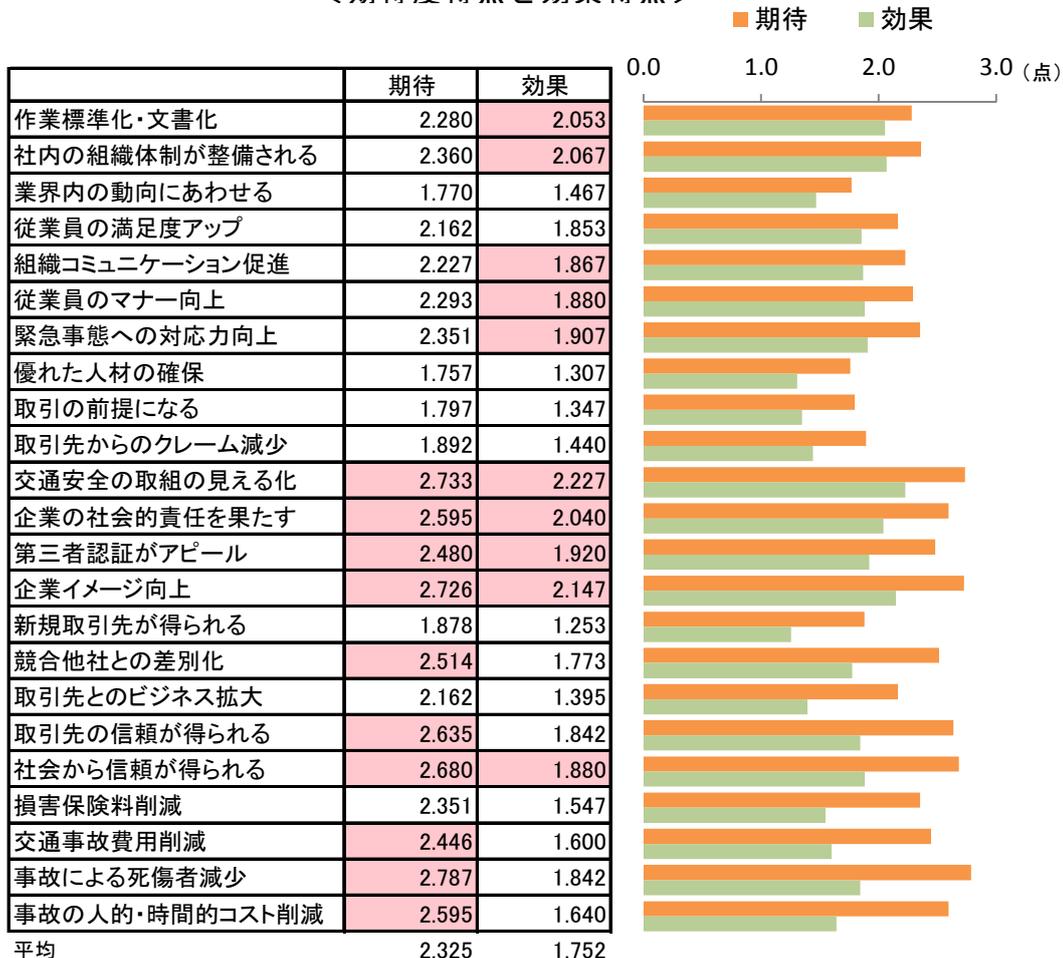
### (1) 「期待」と「効果」の関係

- ・効果得点が最も高いのは「交通安全の取組の見える化」(2.227点)であり、このほか、「企業イメージ向上」「社内の組織体制が整備される」「作業標準化・文書化」「企業の社会的責任を果たす」の項目が2.00点以上となっている。
- ・「期待」と「効果」の関係をみると、両者はおおむね期待(高)かつ効果(高)の関係を示している。その領域には、「交通安全の取組の見える化」や「企業イメージ向上」、「企業の社会的責任を果たす」、「事故による死傷者減少」などが含まれる。
- ・一方、期待(高)かつ効果(低)の領域には、事故費用の削減に関する項目が含まれる。

認証を取得するメリットとして期待していたこと(問7)と認証取得後に感じた効果(問10)との関係を見るため、各項目に対する回答を用いて以下のように得点化し、項目ごとの平均点を用いて比較した。

選択肢	期待度得点(問7)	効果得点(問10)
1	「はっきりと期待していた」の回答*3点	「期待以上の効果があった」の回答*3点
2	「何となく期待していた」の回答*2点	「だいたい期待通りの効果があった」の回答*2点
3	「期待していなかった」の回答*1点	「期待した効果がない/まだわからない」の回答*1点
	平均値算出(無回答を除く)	平均値算出(無回答を除く)

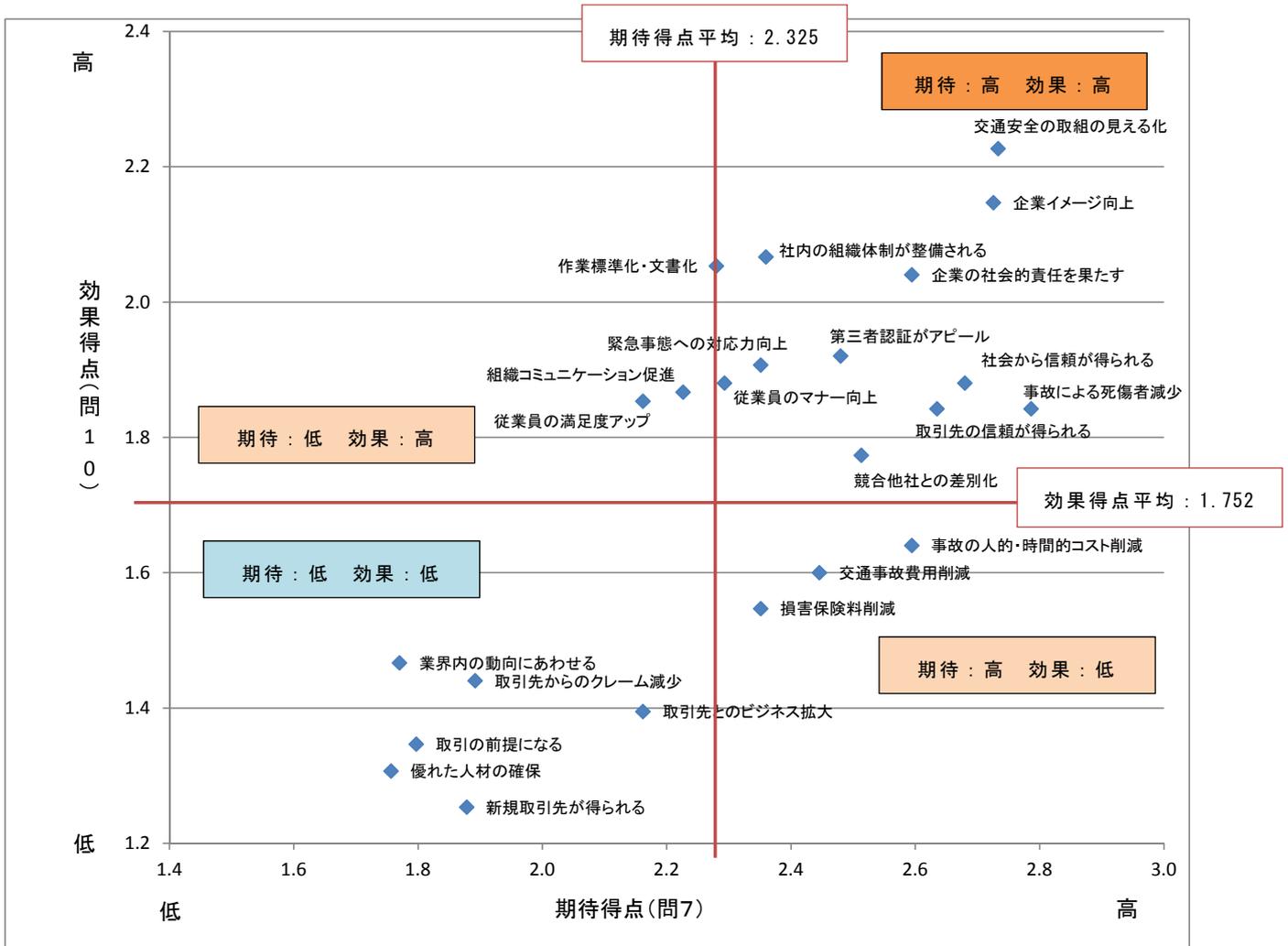
<期待度得点と効果得点>



※網掛けは上位10項目

※差(期待-効果)の値で昇順

<期待と効果の関係>



NO	設問項目	省略表示
1	交通事故による死傷者を減少させる	事故による死傷者減少
2	損害保険料を削減させる	損害保険料削減
3	交通事故に伴う費用(裁判費用、修繕費など)を削減させる	交通事故費用削減
4	交通事故に伴う、人的・時間的コストを削減させる	事故の人的・時間的コスト削減
5	社会から信頼が得られる	社会から信頼が得られる
6	取引先の信頼が得られる	取引先の信頼が得られる
7	第三者認証がアピールとなる	第三者認証がアピール
8	既存取引先とのビジネスを拡大させる	取引先とのビジネス拡大
9	取引先からのクレームを減少させる	取引先からのクレーム減少
10	新規取引先が得られる	新規取引先が得られる
11	競合他社との差別化につながる	競合他社との差別化
12	将来的に(認証取得が)取引の前提となる	取引の前提になる
13	企業イメージ、ブランドイメージを向上させる	企業イメージ向上
14	社内の組織体制が整備される	社内の組織体制が整備される
15	交通安全への取組の見える化が図られる	交通安全の取組の見える化
16	組織内や他組織とのコミュニケーションが促進される	組織コミュニケーション促進
17	社内情報が文書化されることにより、作業が標準化され記録が整備される	作業標準化・文書化
18	従業員の満足度やモチベーションをアップさせる	従業員の満足度アップ
19	従業員のマナーを向上させる	従業員のマナー向上
20	優れた人材が確保できる	優れた人材の確保
21	業界内の動向にあわせる	業界内の動向にあわせる
22	企業の社会的責任が果たせる(CSR)	企業の社会的責任を果たす
23	緊急事態への対応力が向上する(BCP)	緊急事態への対応力向上

(注) 図表、コメントにおいては、選択肢の表記を省略している。

## (2) 「効果あり」回答企業様の傾向の分析

### ① 効果間の相関関係

- ・効果得点をもとに各項目の相関分析を行った。
- ・相関の強いものとして、「交通事故費用削減」と「事故の人的・時間的コスト削減」、「社会から信頼が得られる」と「取引先の信頼が得られる」の2点があげられる。

各項目の効果得点を用いて相関分析を行ったものが下の図である。

相関の強いもの（ $r \geq 0.7$ ）として、「交通事故費用削減」と「事故の人的・時間的コスト削減」、「社会から信頼が得られる」と「取引先の信頼が得られる」の2点があげられる。

また、事故削減関連では「損害保険料削減」と「交通事故費用削減」、「事故による死傷者減少」と「事故の人的・時間的コスト削減」といった項目間で0.3~0.4程度の相関がみられる。

このほかにも0.3~0.4程度の相関がみられるものもあるが、各項目は総じてそれぞれ独立的な項目として働いているといえる。

#### <相関分析結果>

	減少による死傷者	損害保険料削減	交通事故費用削減	事故の人的・時間的コスト削減	社会から信頼が得られる	取引先の信頼が得られる	第三者認証がアビール	取引先とのビジネス拡大	取引先からのクレーム減少	新規取引先が得られる	競合他社との差別化	取引の前提になる	企業イメージ向上	社内の組織体制が整備される	交通安全の取組の見える化	組織コミュニケーション促進	作業標準化・文書化	従業員の満足度アップ	従業員のマナー向上	優れた人材の確保	業界内の動向にあわせる	企業の社会的責任を果たす	緊急事態への対応力向上
事故による死傷者減少	1.00	0.10	-0.08	0.39	0.07	-0.14	0.16	0.01	0.06	-0.17	-0.08	0.24	0.00	-0.12	-0.05	0.06	0.20	-0.02	-0.05	0.12	-0.04	0.09	0.02
損害保険料削減		1.00	0.41	0.03	0.01	-0.13	0.00	-0.12	-0.01	0.11	-0.09	0.09	0.17	0.06	-0.27	-0.04	-0.10	0.07	0.17	-0.04	-0.20	0.06	-0.02
交通事故費用削減			1.00	0.70	-0.01	0.14	0.01	-0.11	0.04	-0.06	0.06	-0.10	-0.11	-0.06	0.15	0.07	0.03	-0.10	0.01	0.10	0.16	-0.27	0.23
事故の人的・時間的コスト削減				1.00	-0.06	0.03	-0.04	0.12	0.04	0.13	-0.04	-0.10	0.08	0.04	0.01	-0.02	-0.04	0.16	-0.05	-0.01	-0.06	0.22	-0.22
社会から信頼が得られる					1.00	0.74	0.27	0.06	-0.20	0.07	-0.25	-0.11	-0.01	-0.08	0.04	0.30	-0.06	0.08	0.00	0.19	-0.16	0.18	-0.07
取引先の信頼が得られる						1.00	0.00	-0.06	0.16	0.03	0.17	0.08	0.09	0.14	-0.15	-0.38	-0.03	-0.04	0.16	-0.24	0.22	0.01	0.17
第三者認証がアビール							1.00	0.15	0.05	0.02	0.28	0.04	0.26	0.03	0.12	0.01	0.06	0.02	-0.13	-0.15	0.05	-0.05	-0.12
取引先とのビジネス拡大								1.00	0.08	0.27	0.04	0.22	-0.12	0.35	-0.23	-0.16	-0.16	-0.12	0.17	0.06	-0.02	0.06	0.31
取引先からのクレーム減少									1.00	0.16	-0.15	-0.07	-0.15	-0.11	0.20	0.09	-0.01	-0.01	0.02	0.29	-0.08	0.12	0.11
新規取引先が得られる										1.00	-0.03	0.35	0.14	-0.19	0.02	0.17	0.05	-0.10	0.03	0.26	-0.11	-0.43	0.02
競合他社との差別化											1.00	0.16	0.28	-0.13	0.05	-0.01	0.01	0.08	0.01	0.29	-0.21	0.13	0.21
取引の前提になる												1.00	0.06	-0.15	0.11	-0.02	0.06	0.11	-0.20	0.01	0.47	0.06	0.07
企業イメージ向上													1.00	0.21	0.13	-0.10	-0.02	-0.05	0.09	-0.06	0.09	0.12	0.00
社内の組織体制が整備される														1.00	0.35	0.32	0.39	0.11	-0.16	0.25	-0.09	-0.11	-0.13
交通安全の取組の見える化															1.00	0.20	-0.02	-0.11	0.21	-0.17	-0.02	0.16	0.05
組織コミュニケーション促進																1.00	0.00	0.04	0.15	-0.14	0.17	0.12	0.09
作業標準化・文書化																	1.00	0.13	0.28	-0.13	0.00	-0.18	0.30
従業員の満足度アップ																		1.00	0.38	0.08	0.04	0.00	0.13
従業員のマナー向上																			1.00	0.16	0.11	0.10	-0.15
優れた人材の確保																				1.00	0.19	0.09	-0.14
業界内の動向にあわせる																					1.00	0.02	-0.11
企業の社会的責任を果たす																						1.00	0.33
緊急事態への対応力向上																							1.00

### ② 「効果あり」回答企業様の属性

- ・認証運用期間別で見たとき、「企業の社会的責任を果たす」をはじめ、「事故及びその費用削減」に関する項目、「競合他社との差別化」や「企業イメージ向上」、「交通安全の取組の見える化」、「社内の組織体制が整備される」、「従業員の満足度アップ」など、多くの項目において運用期間が長いほうが効果の認識が高い。
- ・また、「事故及びその費用削減」に関する項目は事業用（緑ナンバー）、50台以下の企業様で、「取引先からのクレーム減少」を始めとする取引先との関係性では51台以上の企業様で効果認識が高い。

問10の各項目に関する属性別クロス集計を行い、回答傾向の違いを把握した。

分析軸には、「F1 業種（事業用／営業用）」「F3-1 適用車両数」「問4 認証取得時期」（認証運用期間として）を用いた。なお、分析軸は以下のように区分して用いている。

項目	区分数	区分1	区分2
F1 業種	2区分	事業用（47件）	営業用（26件）
F3-1 適用車両数	2区分	50台以下（37件）	51台以上（39件）
問4 認証運用期間	2区分	1年半未満（31件）	1年半以上（43件）

【業種別】

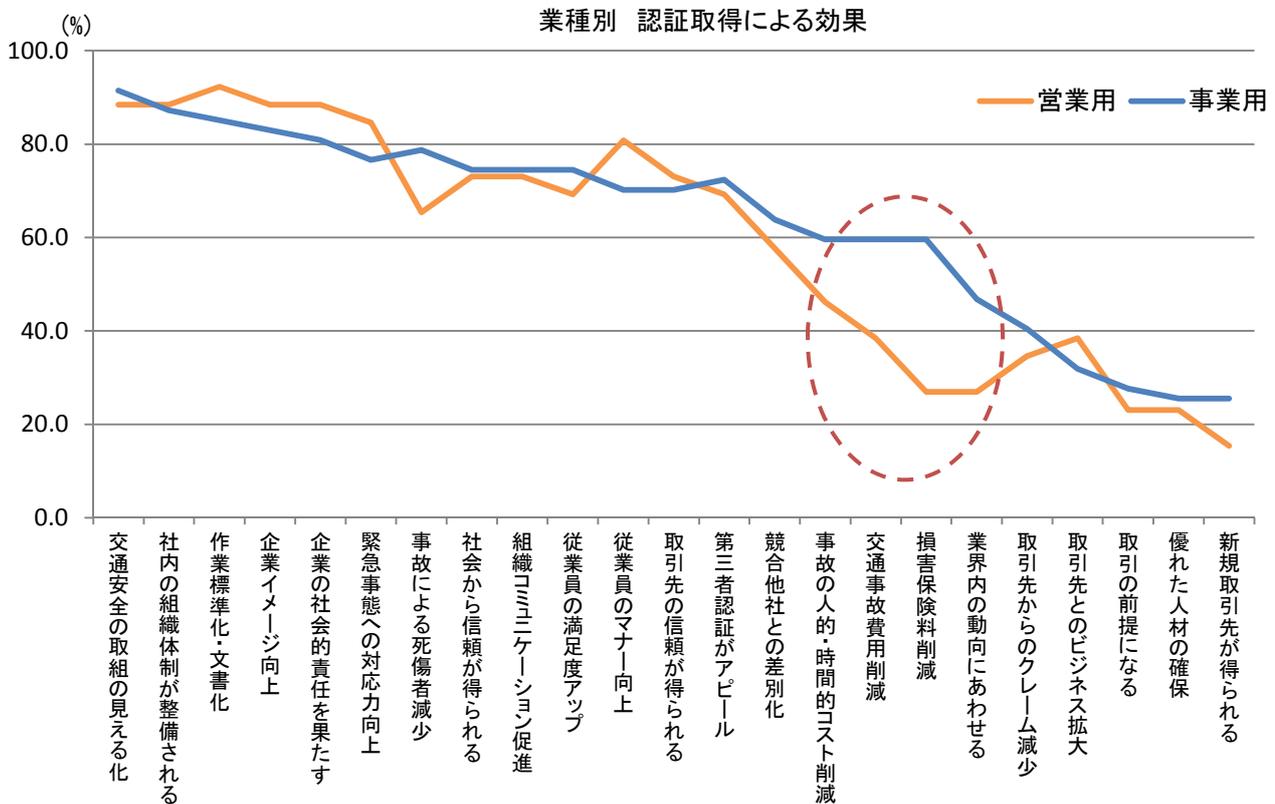
- ・「事故及びその費用削減」に関する項目では、事業用（緑ナンバー）の企業様の方が効果認識が高い。
- ・他の項目に関してはあまり差がみられない。

業種別 効果ありの割合 (%)

NO	設問項目	全体	①営業用	②事業用	差(②-①)
15	交通安全の取組の見える化	88.3	88.5	91.5	3.0
14	社内の組織体制が整備される	85.7	88.5	87.2	-1.2
17	作業標準化・文書化	85.7	92.3	85.1	-7.2
13	企業イメージ向上	83.1	88.5	83.0	-5.5
22	企業の社会的責任を果たす	83.1	88.5	80.9	-7.6
23	緊急事態への対応力向上	77.9	84.6	76.6	-8.0
1	事故による死傷者減少	72.7	65.4	78.7	13.3
18	従業員の満足度アップ	72.7	69.2	74.5	5.2
5	社会から信頼が得られる	72.7	73.1	74.5	1.4
16	組織コミュニケーション促進	72.7	73.1	74.5	1.4
19	従業員のマナー向上	72.7	80.8	70.2	-10.6
7	第三者認証がアピール	70.1	69.2	72.3	3.1
6	取引先の信頼が得られる	70.1	73.1	70.2	-2.9
11	競合他社との差別化	61.0	57.7	63.8	6.1
4	事故の人的・時間的コスト削減	54.5	46.2	59.6	13.4
3	交通事故費用削減	51.9	38.5	59.6	21.1
2	損害保険料削減	48.1	26.9	59.6	32.7
21	業界内の動向にあわせる	40.3	26.9	46.8	19.9
9	取引先からのクレーム減少	39.0	34.6	40.4	5.8
8	取引先とのビジネス拡大	35.1	38.5	31.9	-6.5
12	取引の前提になる	27.3	23.1	27.7	4.6
20	優れた人材の確保	26.0	23.1	25.5	2.5
10	新規取引先が得られる	23.4	15.4	25.5	10.1

※全体及び①②の値は「効果があった」と回答した割合

※全体の値で降順



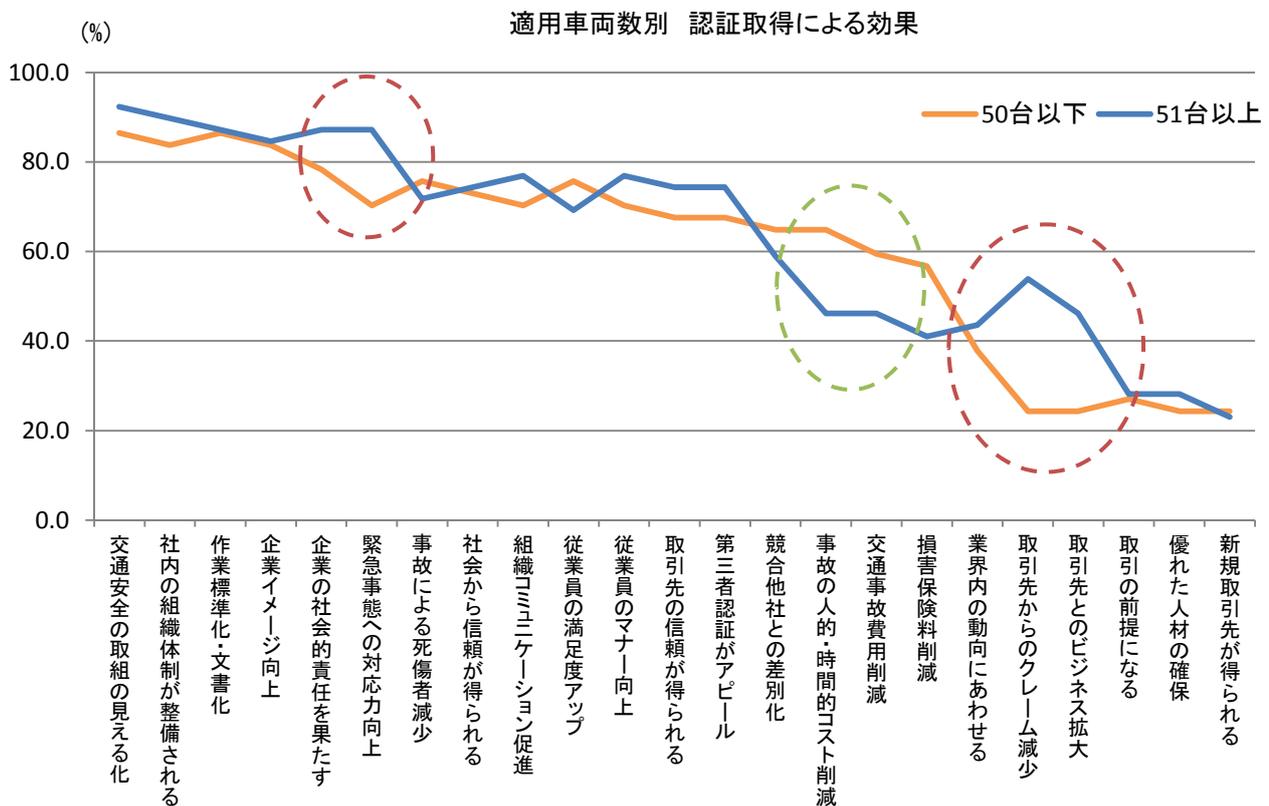
## 【適用車両数別】

- ・「事故及びその費用削減」に関する項目では、50台以下の企業様の方が効果認識が高い。
- ・「取引先からのクレーム減少」を始めとする取引先との関係性では、51台以上の企業様の方が効果認識が高い。

適用車両数別		(%)			
NO	設問項目	全体	①50台以下	②51台以上	差(②-①)
15	交通安全の取組の見える化	88.3	86.5	92.3	5.8
14	社内の組織体制が整備される	85.7	83.8	89.7	6.0
17	作業標準化・文書化	85.7	86.5	87.2	0.7
22	企業の社会的責任を果たす	83.1	78.4	87.2	8.8
13	企業イメージ向上	83.1	83.8	84.6	0.8
23	緊急事態への対応力向上	77.9	70.3	87.2	16.9
16	組織コミュニケーション促進	72.7	70.3	76.9	6.7
19	従業員のマナー向上	72.7	70.3	76.9	6.7
5	社会から信頼が得られる	72.7	73.0	74.4	1.4
1	事故による死傷者減少	72.7	75.7	71.8	-3.9
18	従業員の満足度アップ	72.7	75.7	69.2	-6.4
6	取引先の信頼が得られる	70.1	67.6	74.4	6.8
7	第三者認証がアピール	70.1	67.6	74.4	6.8
11	競合他社との差別化	61.0	64.9	59.0	-5.9
4	事故の人的・時間的コスト削減	54.5	64.9	46.2	-18.7
3	交通事故費用削減	51.9	59.5	46.2	-13.3
2	損害保険料削減	48.1	56.8	41.0	-15.7
21	業界内の動向にあわせる	40.3	37.8	43.6	5.8
9	取引先からのクレーム減少	39.0	24.3	53.8	29.5
8	取引先とのビジネス拡大	35.1	24.3	46.2	21.8
12	取引の前提になる	27.3	27.0	28.2	1.2
20	優れた人材の確保	26.0	24.3	28.2	3.9
10	新規取引先が得られる	23.4	24.3	23.1	-1.2

※全体及び①②の値は「効果があった」と回答した割合

※全体の値で降順

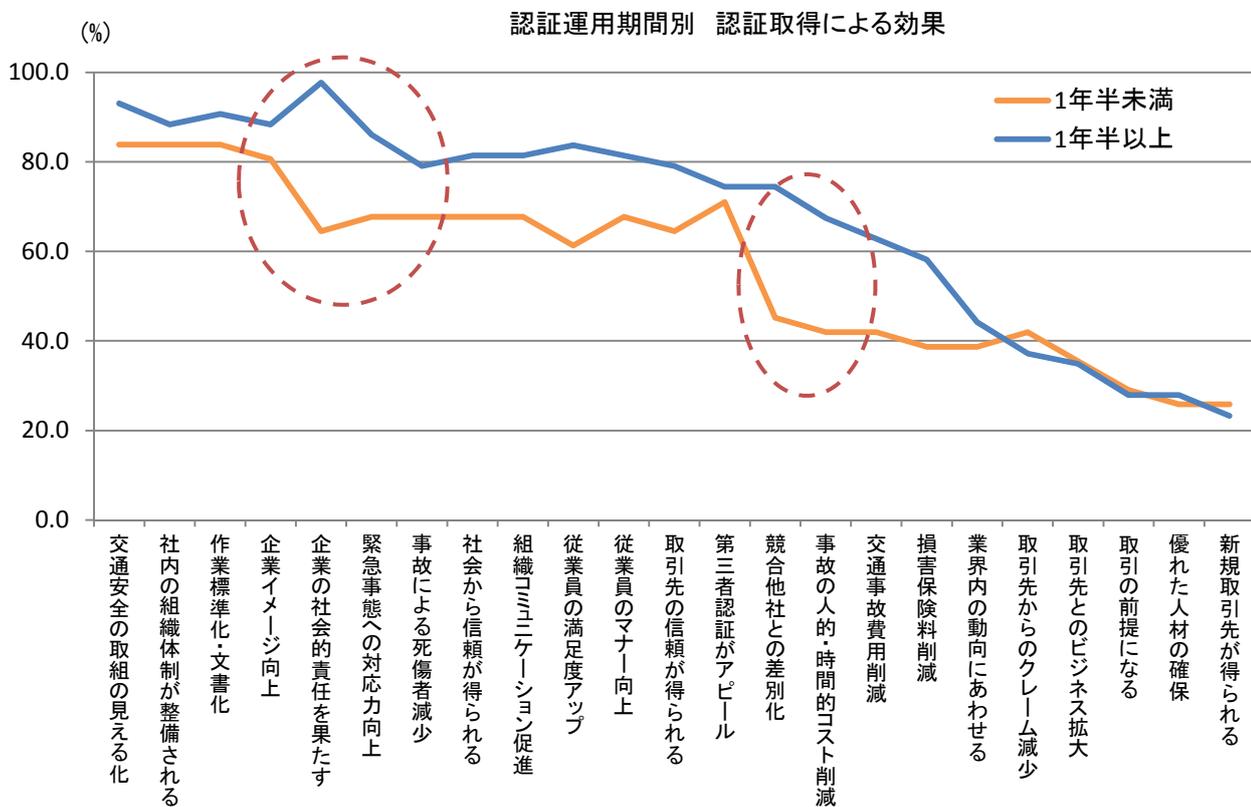


【認証運用期間別】

・「事故及びその費用削減」に関する項目では、運用期間が長い企業様の方が効果認識が高い。  
 ・このほかでも、「企業の社会的責任を果たす」、「競合他社との差別化」や「従業員の満足度アップ」など、多くの項目において運用期間が長い方が効果を認識している。

認証運用期間別		(%)			
NO	設問項目	全体	①1年半未満	②1年半以上	差(②-①)
15	交通安全の取組の見える化	88.3	83.9	93.0	9.2
17	作業標準化・文書化	85.7	83.9	90.7	6.8
14	社内の組織体制が整備される	85.7	83.9	88.4	4.5
22	企業の社会的責任を果たす	83.1	64.5	97.7	33.2
13	企業イメージ向上	83.1	80.6	88.4	7.7
23	緊急事態への対応力向上	77.9	67.7	86.0	18.3
18	従業員の満足度アップ	72.7	61.3	83.7	22.4
5	社会から信頼が得られる	72.7	67.7	81.4	13.7
16	組織コミュニケーション促進	72.7	67.7	81.4	13.7
19	従業員のマナー向上	72.7	67.7	81.4	13.7
1	事故による死傷者減少	72.7	67.7	79.1	11.3
6	取引先の信頼が得られる	70.1	64.5	79.1	14.6
7	第三者認証がアピール	70.1	71.0	74.4	3.5
11	競合他社との差別化	61.0	45.2	74.4	29.3
4	事故の人的・時間的コスト削減	54.5	41.9	67.4	25.5
3	交通事故費用削減	51.9	41.9	62.8	20.9
2	損害保険料削減	48.1	38.7	58.1	19.4
21	業界内の動向にあわせる	40.3	38.7	44.2	5.5
9	取引先からのクレーム減少	39.0	41.9	37.2	-4.7
8	取引先とのビジネス拡大	35.1	35.5	34.9	-0.6
12	取引の前提になる	27.3	29.0	27.9	-1.1
20	優れた人材の確保	26.0	25.8	27.9	2.1
10	新規取引先が得られる	23.4	25.8	23.3	-2.6

※全体及び①②の値は「効果があった」と回答した割合  
 ※全体の値で降順



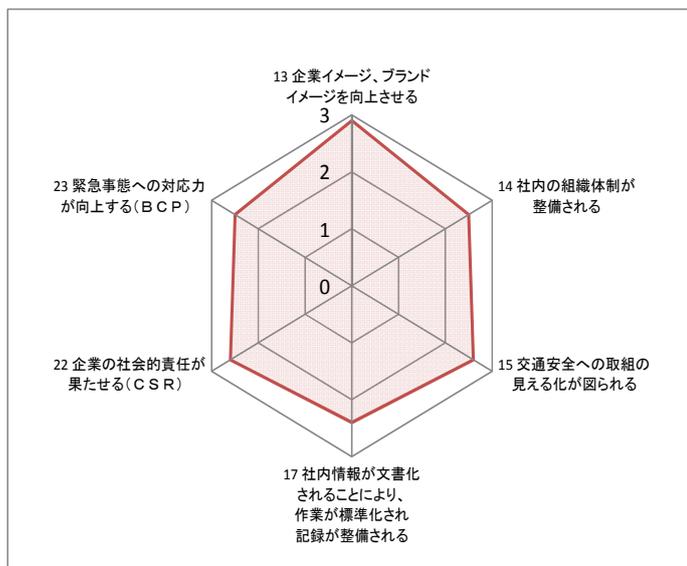
### ③-1 「効果あり」回答企業様における実施内容

問 10 の 23 項目に対する回答を企業単位で得点化し、特に認証取得の効果があったとされる 6 項目を、総得点が上位の企業 10 社と下位の企業 10 社の平均を算出し比較した。得点化に際しては「効果得点」(p 3)と同様の配点とし、企業ごとに問 10 の合計得点を算出して用いた。

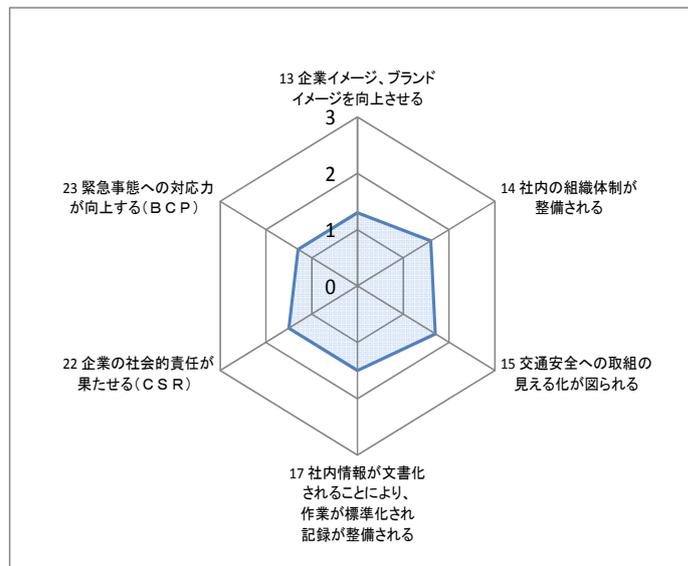
#### 特に効果のあった 6 項目

- 問 13 企業イメージ、ブランドイメージを向上させる【83.1%】
- 問 14 社内の組織体制が整備される【85.7%】
- 問 15 交通安全への取組の見える化が図られる【88.3%】
- 問 17 社内情報が文書化されることにより、作業が標準化され記録が整備される【85.7%】
- 問 22 企業の社会的責任が果たせる(CSR)【83.1%】
- 問 23 緊急事態への対応力が向上する(BCP)【77.9%】

#### ◆総得点上位企業 10 社平均



#### ◆総得点下位企業 10 社平均



総得点が上位の企業 10 社は、すべての項目が 2 点を超え認証取得の効果を実感している。その中でも、一番効果ありと実感した項目は「企業イメージ、ブランドイメージを向上させる」(2.9 点)である。一方、下位の企業 10 社はすべての項目が 1.3~1.7 点と低くなっており、全体的に効果を実感できていないことが分かる。

### ③-2 「効果あり」回答企業様における実施内容

総得点が上位の企業 10 社の取り組み内容（問 9-1、9-2）、具体的な効果（問 11）の内容を整理した。

#### ◆総得点上位 10 社 取組内容（問 9-1 R T S 目標・9-2 R T S 詳細目標）

順位	RTS 目標①②③			RTS 詳細目標①②③		
	内容	指標と把握の方法	活動の結果	内容	指標と把握の方法	活動の結果
1	① 著しいリスク登録。件数の削減	① 年間を通して低減活動を行い件数を下げる。	① 著しいリスク登録件数、50%削減達成	① 安全手順書の作成及び周知教育	① 作成し周知教育を行った。	① 作成、周知教育を行った。
	② 法的要求事項の順守	② ・道路交通法の周知・毎月の安全会議の実施・教育訓練の計画実施	② ・法的要求事項・違反通告数 0 件・会議実施・全数達成・教育訓練不足事故 0 件	② 車両にバックアラームを計画的に装着	② 未装着車を洗い出し計画的に装着した。	② 80%装着した残りは次年度に持越し継続
	③ 運転者及び社員の健康管理	③ ・定期健康診断実施・有所見者の保健師面談指導・禁煙活動による運転防止	③ ・全員実施達成・保健師面談実施達成・80%禁煙達成	③ ドライブレコーダーの分析及び会議での事例発表	③ 毎月、ドライブレコーダーの映像を解析し記録	③ 年度末にまとめて事例発表を行った。
2	① 重大事故 0 件／年	① 道路交通安全実績評価シートに記録	① 0 件	① アルコールチェック 100%実施	① 毎月集計し把握	① 100%達成
	② 事故件数 15 件以下／年（製品事故含む）	② 事故報告書による件数を月毎に集計し把握	② 26 件	② 点呼実施率 100%	② 毎月集計し把握	② 100%達成
	③ デジタコ総合評価点数 90 点以上	③ 毎月デジタコを集計し各ドライバーに毎評価	③ 93.2%達成	③ 安全パトロール実施 2 回／月	③ パトロール計画・実績表にて管理	③ 100%達成
3	① 2016 年において社有車死亡事故ゼロ	① 毎月の安全ミーティングにて把握	① 2015 年度においては社有車死亡事故ゼロ達成	① 死亡事故 0 件 重傷事故 0 件	① 毎月の安全ミーティングにて	① 対象事故ゼロで達成
	② —	② —	② —	② 軽度及び物損事故 50 件以下にする。	② 社内エコドライブチャレンジ 200 毎月の安全ミーティングにて	② 目標達成
	③ —	③ —	③ —	③ —	③ —	③ —
4	① 事故件数 30 以下	① 月毎に集計	① 42 件（平成 26.3 月末）	① 追走指導 100%	① 毎月対象者を本社にて指名、コントロール	① 80%で残がでた。
	② —	② —	② —	② —	② —	② —
	③ —	③ —	③ —	③ —	③ —	③ —
5	① 車両事故、物損事故の削減	① 不適合報告書の随時の発行で管理者への回覧により周知	① 前年比 20%減	① アルコールチェックの徹底	① 運転手だけでなく事務倉庫全ての従業員対象。数値は 0.00 設定	① 実施率 100%
	② —	② —	② —	② 社速厳守	② デジタコ全車評価制度	② 毎月の評価公表により目標達成
	③ —	③ —	③ —	③ —	③ —	③ —

順位	RTS 目標①②③			RTS 詳細目標①②③		
	内容	指標と把握の方法	活動の結果	内容	指標と把握の方法	活動の結果
6	①全社員が交通ルールを守り死亡事故、重大な負傷者を発生させる事故を0とする。	①事故報告書による。	①昨年度中、今年度11月までの発生無し。	①ドライブレコーダー映像による危険形態の特定	①毎月の班会において集め検討会を実施する。	①毎月の開催が出来ており、形態を特定できている。
	②全社員が道路交通安全マネジメントの目的を理解し、地域全体の交通安全に貢献できる模範となる行動をとる。	②年度末に面談による理解度を管理責任者が判断する。	②全ての人員が目的を理解し、模範となる行動をとっている。	②安全運転速度の厳守。連続運転時間の厳守	②デジタコ評点によって判断(毎月)	②目標である評点90点以上を全月で達成した。
	③ —	③ —	③ —	③ —	③ —	③ —
7	①10万キロあたり事故率40%減	①全車の月末距離と事故件数	①40%以上削減で目標達成	①当交通安全マニュアルの理解度80%	①決められた月に当社マニュアルの理解度テストを行う。	①理解度100%達成
	② —	② —	② —	②ヒヤリハット報告書 毎月3件以上 年間36件以上(インシデント調査)	②月末に件数確認をする。	②達成
	③ —	③ —	③ —	③工場内安全パトロールでバック走行時の「OK」の割合80%以上	③毎日、安全パトロールをしチェックする。	③達成(95%)
8	①RTS推進組織が提供する製品及びサービスにより市場を拡大する。	①・導入台数の増加・RTS削減効果事例の提供・各種イベント数の増加	①目標提供回数を達成・目標イベント回数を達成	① —	① —	① —
	②導入に対するRTS成果ファクターを把握する。	②・導入後事故削減率の改善・運転診断評点の改善	②・△50%削減を達成・10%向上を達成	② —	② —	② —
	③導入顧客先におけるRTS影響要素を減らす。	③・製品の初期不良の減少・設置不具合の減少	③目標割合を達成	③ —	③ —	③ —
9	①車両事故件数0目標	①定期的に添乗指導を実施し、個々の実態を把握	①車両事故件数年間0件の為、目標達成	①アルコールチェックの徹底実施率100%	①アルコールチェック実施率を毎日集計し把握	①実施率100%で目標達成
	② —	② —	② —	② —	② —	② —
	③ —	③ —	③ —	③ —	③ —	③ —
10	①死亡・重傷事故を向こう3年間0件を継続する。	①年間0件達成	①年間0件達成	①シートベルトの完全装着	①・毎月の安全パトロールでの着装確認・安全啓蒙無線での日々指導	①毎月、日常実施
	②死亡・重傷事故以外の事故3件以内	②毎年3件以内をキープ	②毎年3件以内をキープ	②信号が黄色時の交差点進入禁止の徹底	②・毎月の安全パトロールでの着装確認・安全啓蒙無線での日々指導	②毎月、日常実施
	③道路外での軽微な破損事故各部毎6件以内	③6件以内をキープ	③道路外での軽微な破損事故6件以内をキープ	③社内規制速度の徹底遵守	③帰庫点呼時のデジタコデータに管理と安全データを使った詳細な指導	③日常実施

◆総得点上位 10 社 具体的な効果（問 11）

順位	具体的な効果						
	交通事故について	損害保険料について	既存取引先について	新規取引先について	社内コミュニケーションについて	社外コミュニケーションについて	トップマネジメントについて
1	重大事故なし。物損事故も減少した。	事故なしで割引率が上がった。	取引先がISO 39001への認識が薄い。	取引先がISO 39001への認識が薄い。	普段から安全に対する意識が高まった。	普段から安全に対する意識が高まった。	「安全がもうかる」ということへの認識あり。
2	元々交通事故は少ないが、ドライバーの意識は変わった。	10%減少	特になし。	特になし。	ドライバーの意識は向上した。	特になし。	トップから安全に対する発言は増えた。
3	重傷事故は0件でした。	損害保険料は多少減少した。	取引先に取得をアピールし、信頼が得られた。	新規開拓のツールとして役立っている。	社内コミュニケーションについては十分できている。	協力会社とのコミュニケーションは増えた。	以前よりトップの安全に対する発言は十分です。
4	重大事故が減った。	ほぼ変わらず(もともと安かった)。	ISO 39001の内容を聞きたいとリクエストがあり対応した。	特になし。	変化なし。	協力会社とのミーティングが増えた。	—
5	不幸にして重傷事故1件(6月)	—	事故以外の取引は増加	拡大中	安全に対する意識が高まっている。	ISO 39001の影響だけではないが、増加	トップから安全意識を高めている。
6	引き続き発生がなかった。	変化なし。	信頼度が向上した。	該当なし。	ドライブレコーダーデータの活用向上、ヒヤリ・ハット情報が多くなった。	取得に関する話題が豊富となり、コミュニケーションが向上した。	バックモニターを全車に設置した。
7	毎年20件以上の事故が取得後5件までに減った。	20%減	—	—	意識、知識が広がった。進んで無事故に取り組むようになった。	—	—
8	導入事業者様から事故が大幅に減ったとの報告あり	重大事故が減り、保険割引が増えたとの報告あり。	なし。	問合せが増加した。	運輸安全マネジメントへの意識が高まった。	ISO 39001に関しての話題が多く出るようになった。	製品が顧客の安全に貢献できるものであることで、初めて会社として利益も生まれ、成長できるという経営方針が明確化された。
9	車両事故件数0件	保険料未使用	わからない。	わからない。	事故に対する発言が前向きになった。	わからない。	トップから安全に対する意識が変わった。
10	重傷死亡事故は導入後0件。有責道路上事故も年間1件程度であり、非常に効果がある。	保険料は大きな変動はない。	取引先の信用は得ている。量の増加はない。	なし	ヒヤリ・ハットが運転手から多く上がり、安全会議等での発言も増えた。	協力会社からの問い合わせがあり、独自の説明会を開催したりした。	元からトップからの発言、挨拶は多く、現在も維持している。

### 3. 考察

#### (1) 「期待」と「効果」の関係について

「期待」と「効果」の関係をみると、両者はおおむね期待（高）かつ効果（高）の関係を示している。その領域には、「交通安全の取組の見える化」や「企業イメージ向上」、「企業の社会的責任を果たす」、「事故による死傷者減少」などが含まれる。

ISO 39001の認証を取得した企業様は、認証取得のメリットとして高い「期待」を持っていることや、道路交通安全マネジメントシステムが着実に運用されれば高い「効果」が得られることもわかった。

#### (2) 「効果あり」回答企業様の傾向の分析について

##### ①効果間の相関関係について

効果間の相関関係の強いものとして、「交通事故費用削減」と「事故の人的・時間的コスト削減」、「社会から信頼が得られる」と「取引先の信頼が得られる」の2点があげられる。

ISO 39001の認証を取得した企業様は、道路交通安全マネジメントシステムを運用した結果、事故が減少し、「交通事故費用削減」と「事故の人的・時間的コスト削減」につながったことがわかる。

第三者である認証機関からISO 39001の基準を満たしていると証明された企業様は、道路交通安全に積極的に取り組んだ結果、「社会から信頼が得られる」や「取引先の信頼が得られる」に相関が現れたと考えられる。

##### ②「効果あり」回答企業様の属性について

「効果あり」回答企業様の属性については、「業種別」「適用車両数別」「認証運用期間別」で集計し、回答傾向の違いを把握した。

「業種別」では、「事故及びその費用削減」に関する項目で事業用（緑ナンバー）の企業様の方が効果認識が高い。ISO 39001の認証を取得した事業用自動車の企業様が、事故を発生させた場合には、人的・物的の損害だけではなく、旅客であれば乗客の被害、貨物であれば荷物の補償まで拡大するため、事故が減少することで「事故及びその費用削減」に直結することが考えられる。

「適用車両数別」では、「取引先からのクレーム減少」に関する項目で、51台以上の企業様の方が効果認識が高い。

「認証運用期間別」では、アンケート調査における23の質問項目のうち19の項目が「1年半以上」と「1年半未満」で差が現れた。道路交通安全に対する取り組みには特効薬はないが、「効果あり」回答企業様は、確立した道路交通安全マネジメントシステムを実施し、維持し、継続的に改善し、長期に渡り運用することにより、効果が現れていることがわかる。

### ③－１「効果あり」回答企業様における実施内容について

総得点が上位の企業 10 社は、すべての項目が 2 点を超え認証取得の効果を実感している。一方、下位の企業 10 社はすべての項目が 1.3～1.7 点と低くなっており、全体的に効果を実感できていないことが分かる。

「効果あり」回答企業様が道路交通安全マネジメントシステムでどのような内容を実施しているかは③－２で考察する。

### ③－２「効果あり」回答企業様における実施内容について

#### １）ＲＴＳ目標

「効果あり」回答企業様における取り組み内容（問 9-1）に対する質問では、ＲＴＳ目標を策定・運用するにあたり、参考となる回答が得られた。

ＲＴＳ目標の多くは、ＩＳＯ ３９００１に規定される道路交通衝突事故を防止する安全対策の一環である「ＲＴＳパフォーマンスファクター」のうち、死亡及び重大な負傷者事故の撲滅や有責事故件数の削減などを示す「最終安全成果ファクター」から導かれ作成されていた。

例) 死亡及び重大な負傷者の事故 0 件

事故件数〇〇件以下

計画されたＲＴＳ目標が、計画した結果を達成できているか会議やミーティングなどを活用し、毎月進捗状況を監視・測定し、分析し、評価し、見直しを図り、小さなＰＤＣＡを回して改善していることがわかる。

#### ２）ＲＴＳ詳細目標

「効果あり」回答企業様における取り組み内容（問 9-2）に対する質問では、ＲＴＳ詳細目標を策定・運用するにあたり、参考となる回答が得られた。

ＲＴＳ詳細目標の多くは、「ＲＴＳパフォーマンスファクター」のうち、「道路の設計及び安全速度の設定」、「適切な道路の使用」などを示す 10 項目の「中間安全成果ファクター」から導かれ作成されていた。また、デジタルタコグラフ、ドライブレコーダーなど安全機器を使用したり、安全パトロールの実施や追走指導などでドライバーの運転行動を確認したりするなどの取組が実施されていた。

例) 会社が決めた速度をドライバーが順守しているかデジタルタコグラフで評価

ドライブレコーダーの映像確認による危険な運転の把握

安全パトロールの実施

追走指導による運転状況の確認

R T S 詳細目標の取組では、管理者とドライバーがコミュニケーションを通じ、日々の業務の中で自己チェックが行われ、見直しを実施することでドライバーの意識が変わり、力量の維持・向上につなげることが重要であると考えられる。

### 3) 具体的な効果

具体的な効果（問 11）に対する質問では、「交通事故について」、「損害保険料について」等について、「効果あり」回答企業様から具体的な回答が得られた。

「効果あり」回答企業様においては、「トップマネジメントの積極的な関与」と「社内コミュニケーション」の充実化が道路交通安全マネジメントシステムの成功の秘訣と考えられる。

「トップマネジメントの積極的な関与」については、以下の取組が挙げられる。

- ・ 道路交通安全マネジメントシステムは、トップマネジメントがリーダーシップを発揮し、コミットメントを実証し、道路交通安全マネジメントシステムを構築することに重大な意義がある。
- ・ トップマネジメントは、現場での取組を後押しすることが重要である。
- ・ トップマネジメントの安全に対する意識が道路交通安全マネジメントシステムの意図する成果の達成に多大な影響を与える。

「社内コミュニケーション」については、以下の取組が挙げられる。

- ・ トップマネジメントが、現場で起きている課題を現場管理職から把握し、安全に関するベクトルをお互いに合わせ、道路交通安全マネジメントシステムを構築し、対応することが非常に重要である。
- ・ 経営管理部門が、現業実施部門とコミュニケーションを図り、全社一丸となった道路交通安全マネジメントシステムの構築が必要である。
- ・ 現場管理職が日々、ドライバーとコミュニケーションをとり、道路交通安全について伝え、ドライバーが安全に対する意識を持ち、運転行動が安全の方向に変わることが大切である。

### 4) まとめ

考察のまとめとして、「効果あり」回答企業様は、トップマネジメントが道路交通安全マネジメントシステムに理解を示し、リーダーシップを発揮し、経営管理部門から現場のドライバーまで全社一丸となって取組を実施していることが見えた。

また、トップマネジメントから経営管理部門の社員、ドライバーまでが、良好なコミュニケーションを通じて道路交通安全マネジメントシステムを運用していることがわかった。

さらに、ISO 39001の要求事項に基づいて計画を策定し、計画した結果が達成できているか評価し、改善を図り、有責事故の削減など組織が意図する成果を達成するために道路交通安全マネジメントシステムにおける小さなPDCAと大きなPDCAを回し続けることが重要であることが確認できた。

## 4. 資料編（平成 27 年度調査票）

### 「ISO 39001 取得企業様アンケート調査」

本調査は、ISO 39001 の国内審議委員会事務局である独立行政法人 自動車事故対策機構が、認証を取得した企業様の業態、規模、導入した目的、取得の効果などを把握し、国内審議委員会に取組状況をフィードバックするとともに、国内への更なる普及・啓発活動を行う資料として取得を希望する企業様等に展開することを目的として継続して実施している調査です。

#### 《ご記入にあたって》

1. 回答は、該当する番号を○で囲んでください。回答の数は質問によって異なりますので、ご注意ください。なお、選択肢の中から「その他」を選んだ場合は、( ) 内に内容を具体的に記入してください。
2. ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒（切手不要）にて、12月14日（月）までにご返送ください。
3. この調査についてご不明な点がございましたら、次の問い合わせ先へご連絡ください。

#### 【調査に関するお問い合わせ】

##### ・調査の主旨、目的に関すること

独立行政法人 自動車事故対策機構 安全調査室 高橋、太田  
TEL：03-5608-7641 お問い合わせ受付時間：平日9:00～17:40

##### ・調査票の内容、回答方法に関すること

株式会社 サーベイリサーチセンター 大木  
TEL：03-3802-6724 お問い合わせ受付時間：平日10:00～18:00

貴社名、ご担当者、連絡先をご記入下さい。

※ご記入いただいた個人情報、ご回答いただいた内容の確認以外には使用いたしません。

貴社名	
部署	
ご担当	
お電話番号	

問1 ISO 39001を知った情報源は何ですか。(あてはまるものすべて○)

- |                      |            |
|----------------------|------------|
| 1. 自動車事故対策機構 (NASVA) | 4. 取引先     |
| 2. ISO認証機関           | 5. 新聞・専門誌  |
| 3. ISOコンサルタント会社      | 6. その他 ( ) |

問2 最初にISO 39001を知った時、認証取得に関してどのように判断されましたか。(1つだけ○)

- |                                   |
|-----------------------------------|
| 1. 認証取得するための準備をすぐにはじめた            |
| 2. 認証取得することは決めたが、準備をはじめるのに時間がかかった |
| 3. 認証取得することを悩んだ                   |

問2で「2. 準備時間がかかった または 3. 悩んだ」に○をつけた方にお伺いします

▶ 問2-1 それはなぜですか。(あてはまるものすべて○)

- |                  |                     |
|------------------|---------------------|
| 1. 認証取得にお金がかかる   | 6. 必要性を感じない         |
| 2. 維持にお金がかかる     | 7. 取引先から要望があるかわからない |
| 3. 人材が不足         | 8. 先に取り組む課題があった     |
| 4. 効果が得られるかわからない | 9. その他 ( )          |
| 5. 他の規格で間に合う     | 10. 特に理由はない         |

問3 ISO 39001の認証取得の準備をはじめた時期はいつですか。(西暦の年月でご記入ください)

□	□	□	□	年	□	□	月
---	---	---	---	---	---	---	---

問4 ISO 39001の認証取得された時期はいつですか。(西暦の年月でご記入ください)

□	□	□	□	年	□	□	月
---	---	---	---	---	---	---	---

問5 ISO 39001の取得に関して、コンサルタントの支援を受けましたか。(1つだけ○)

- |                   |                      |
|-------------------|----------------------|
| 1. コンサルタントの支援を受けた | 2. コンサルタントの支援を受けていない |
|-------------------|----------------------|

問5で「1. 支援を受けた」に○をつけた方にお伺いします

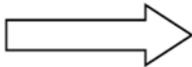
▶ 問5-1 どちらのコンサルタントですか。ご記入ください。

--

問6 ISO 39001以外に、下記の認証をお持ちですか。(あてはまるものすべて○)

- |                         |                         |
|-------------------------|-------------------------|
| 1. ISO 9001 (品質)        | 4. OHSAS 18001 (労働安全衛生) |
| 2. ISO 14001 (環境)       | 5. その他 ( )              |
| 3. ISO 27001 (情報セキュリティ) |                         |

問7 ISO 39001の認証取得する前は、取得するメリットとしてどのようなことを期待されて  
 いましたか。それぞれの項目ごとに期待していた度合いをお答え下さい。(それぞれ1つだけ○)

項目ごとに、横向きそれぞれ1つだけ○ 	1 は っ き り と 期 待 し て い た	2 何 と な く 期 待 し て い た	3 期 待 し て い な か っ た
1. 交通事故による死傷者を減少させる	1	2	3
2. 損害保険料を削減させる	1	2	3
3. 交通事故に伴う費用(裁判費用、修繕費など)を削減させる	1	2	3
4. 交通事故に伴う、人的・時間的コストを削減させる	1	2	3
5. 社会から信頼が得られる	1	2	3
6. 取引先の信頼が得られる	1	2	3
7. 第三者認証がアピールとなる	1	2	3
8. 既存取引先とのビジネスを拡大させる	1	2	3
9. 取引先からのクレームを減少させる	1	2	3
10. 新規取引先が得られる	1	2	3
11. 競合他社との差別化につながる	1	2	3
12. 将来的に(認証取得が)取引の前提となる	1	2	3
13. 企業イメージ、ブランドイメージを向上させる	1	2	3
14. 社内の組織体制が整備される	1	2	3
15. 交通安全への取組の見える化が図られる	1	2	3
16. 組織内や他組織とのコミュニケーションが促進される	1	2	3
17. 社内情報が文書化されることにより、作業が標準化され記録が整備される	1	2	3
18. 従業員の満足度やモチベーションをアップさせる	1	2	3
19. 従業員のマナーを向上させる	1	2	3
20. 優れた人材が確保できる	1	2	3
21. 業界内の動向にあわせる	1	2	3
22. 企業の社会的責任が果たせる(CSR)	1	2	3
23. 緊急事態への対応力が向上する(BCP)	1	2	3
上記以外に、ISO 39001の認証取得する前に、取得するメリットとして期待していたことあればご記入下さい。 ( )			

問8 RTSマネジメントシステムを構築する上での取組み難易度はいかがでしたか。  
 それぞれの項目ごとに1番近い取組み度合いをお答え下さい。(それぞれ1つだけ○)

項目ごとに、横向きそれぞれ1つだけ○  ※【 】はISO 39001の章を示す。	1 困難な 取組	2 普通の 取組	3 容易な 取組
1. 組織及びその状況の理解【4】	1	2	3
2. 利害関係者の特定とそのニーズ及び期待の理解【4】	1	2	3
3. 安全方針の策定【5】	1	2	3
4. 組織の役割、責任及び権限の設定【5】	1	2	3
5. リスク及び機会の検討(リスク評価)【6】	1	2	3
6. RTSパフォーマンスファクターの特定【6】	1	2	3
7. RTS目標及びRTS詳細目標の策定【6】	1	2	3
8. 行動計画の策定【6】	1	2	3
9. 組織の内部及び外部との協議及び連携【7】	1	2	3
10. 資源の検討及び提供【7】	1	2	3
11. 力量の設定【7】	1	2	3
12. 道路交通安全に対する認識【7】	1	2	3
13. コミュニケーション体制の構築【7】	1	2	3
14. 文書類の整備【7】	1	2	3
15. 運用管理の方法【8】	1	2	3
16. 外部委託プロセスの管理【8】	1	2	3
17. 緊急事態対応の手順の作成【8】	1	2	3
18. 緊急事態対応のテストの実施【8】	1	2	3
19. 取組に対する、監視、測定、分析及び評価【9】	1	2	3
20. 関係法令等の順守状況の評価【9】	1	2	3
21. 発生した交通事故に対する原因分析、対策の実施及び有効性の評価【9】	1	2	3
22. ヒヤリハットの収集及び分析【9】	1	2	3
23. 内部監査の実施【9】	1	2	3
24. マネジメントレビューの実施【9】	1	2	3
25. 是正処置の実施及び有効性の確認【10】	1	2	3
26. その他 ( )	1	2	3

【御社のRTS目標及びRTS詳細目標についてお伺いします】

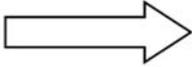
問9-1 代表的な「RTS目標」について以下の表にお答えください。(複数回答可)

番号	RTS目標の内容	RTS目標の指標と把握の方法	RTS目標活動の結果
例	車両事故件数を前年比 2割削減	事故報告書による件数を 月毎に集計し、把握	車両事故件数を前年比で 2割削減のため目標達成
1			
2			
3			

問9-2 代表的な「RTS詳細目標」について以下の表にお答えください。(複数回答可)

番号	RTS詳細目標の内容	RTS詳細目標の指標と把握の方法	RTS詳細目標活動の結果
例1	アルコールチェックの徹底 実施率100%	アルコールチェック実施率を 毎月集計し、把握	実施率100%で目標達成
例2	社速厳守の徹底 違反者数前年比50%減	毎運行後にデジタルタコグラ フにより社速違反件数を把握	違反者数半減で目標達成
1			
2			
3			

問10 ISO 39001 認証取得後に、どのような効果がありましたか。それぞれの項目ごとに効果の度合いを認証取得前に期待していたことと比較してお答え下さい。(それぞれ1つだけ○)

項目ごとに、横向きそれぞれ1つだけ○ 	1 期待以上の 効果があった	2 だいたい期待通りの 効果があった	3 期待した効果がない ／まだわからない
1. 交通事故による死傷者を減少させる	1	2	3
2. 損害保険料を削減させる	1	2	3
3. 交通事故に伴う費用(裁判費用、修繕費など)を削減させる	1	2	3
4. 交通事故に伴う、人的・時間的コストを削減させる	1	2	3
5. 社会から信頼が得られる	1	2	3
6. 取引先の信頼が得られる	1	2	3
7. 第三者認証がアピールとなる	1	2	3
8. 既存取引先とのビジネスを拡大させる	1	2	3
9. 取引先からのクレームを減少させる	1	2	3
10. 新規取引先が得られる	1	2	3
11. 競合他社との差別化につながる	1	2	3
12. 将来的に(認証取得が)取引の前提となる	1	2	3
13. 企業イメージ、ブランドイメージを向上させる	1	2	3
14. 社内の組織体制が整備される	1	2	3
15. 交通安全への取組の見える化が図られる	1	2	3
16. 組織内や他組織とのコミュニケーションが促進される	1	2	3
17. 社内情報が文書化されることにより、作業が標準化され記録が整備される	1	2	3
18. 従業員の満足度やモチベーションをアップさせる	1	2	3
19. 従業員のマナーを向上させる	1	2	3
20. 優れた人材が確保できる	1	2	3
21. 業界内の動向にあわせる	1	2	3
22. 企業の社会的責任が果たせる(CSR)	1	2	3
23. 緊急事態への対応力が向上する(BCP)	1	2	3
24. その他( )	1	2	3

問11 ISO 39001 認証取得後、具体的にどのような効果がありましたか。下記の項目毎に、具体的に効果があった事例をご記入下さい。効果がない／（まだ）わからない場合は、「なし」または「わからない」とご記入下さい。

交通事故について	(例：重傷事故または有責事故が○件（または○割）減少した 等)
損害保険料について	(例：損害保険料が○割減少した 等)
既存取引先について	(例：取引先から信用をいただき、取引量が増加傾向となった 等)
新規取引先について	(例：取引先から個別相談業務や認証取得支援の依頼があり新規事業に繋がった 等)
社内コミュニケーションについて	(例：社員から安全に対する取り組みについて意見が多く出るようになった 等)
社外コミュニケーションについて	(例：協力会社とのコミュニケーションが増えた 等)
トップマネジメントについて	(例：安全に対する投資が○割増えた。トップから安全に対する発言が増えた 等)
その他	

問12 ISO 39001について、ご意見やご要望を、ご自由にご記入下さい。

<p>(例：仕組みがない会社にとっては、仕組みを構築できるいい機会となりうる。 ISO 9001等のように入札条件にするなど、政府機関との連携が必要。 ISO 39001のJIS規格化を検討してほしい。 等)</p>
--

**【貴社についてお伺いします】**

F 1 貴社の業種は何ですか。(1つだけ○)

1. 旅客や貨物を運送する自動車運送事業者 (例:いわゆる緑ナンバーのバス、ハイヤー・タクシー、トラック 等)
2. 上記以外 (業種: )

F 2 貴社の全従業員数は何人ですか。(1つだけ○)

1. 5人以下	6. 51~100人	11. 3001~5000人
2. 6~10人	7. 101~200人	12. 5001~10000人
3. 11~20人	8. 201~500人	13. 10001人以上
4. 21~30人	9. 501~1000人	
5. 31~50人	10. 1001~3000人	

F 2-1 そのうち、ISO 39001の適用範囲に含まれる従業員数は何人ですか。(1つだけ○)

1. 5人以下	6. 51~100人	11. 3001~5000人
2. 6~10人	7. 101~200人	12. 5001~10000人
3. 11~20人	8. 201~500人	13. 10001人以上
4. 21~30人	9. 501~1000人	
5. 31~50人	10. 1001~3000人	

F 3 貴社でご使用されている車両数は何台ですか。(1つだけ○)

1. 0台(使用車両無し)	6. 21~30台	11. 301~500台
2. 1~2台	7. 31~50台	12. 501~1000台
3. 3~5台	8. 51~100台	13. 1001台以上
4. 6~10台	9. 101~200台	
5. 11~20台	10. 201~300台	

F 3-1 そのうち、ISO 39001の適用範囲に含まれる車両数は何台ですか。(1つだけ○)

1. 0台(使用車両無し)	6. 21~30台	11. 301~500台
2. 1~2台	7. 31~50台	12. 501~1000台
3. 3~5台	8. 51~100台	13. 1001台以上
4. 6~10台	9. 101~200台	
5. 11~20台	10. 201~300台	

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

**ISO 39001 取得企業様アンケート調査  
追加集計・分析レポート**

発行日／平成29年3月

発行／独立行政法人 自動車事故対策機構

〒130-0013

東京都墨田区錦糸3-2-1 アルカイースト19階

TEL 03-5608-7641